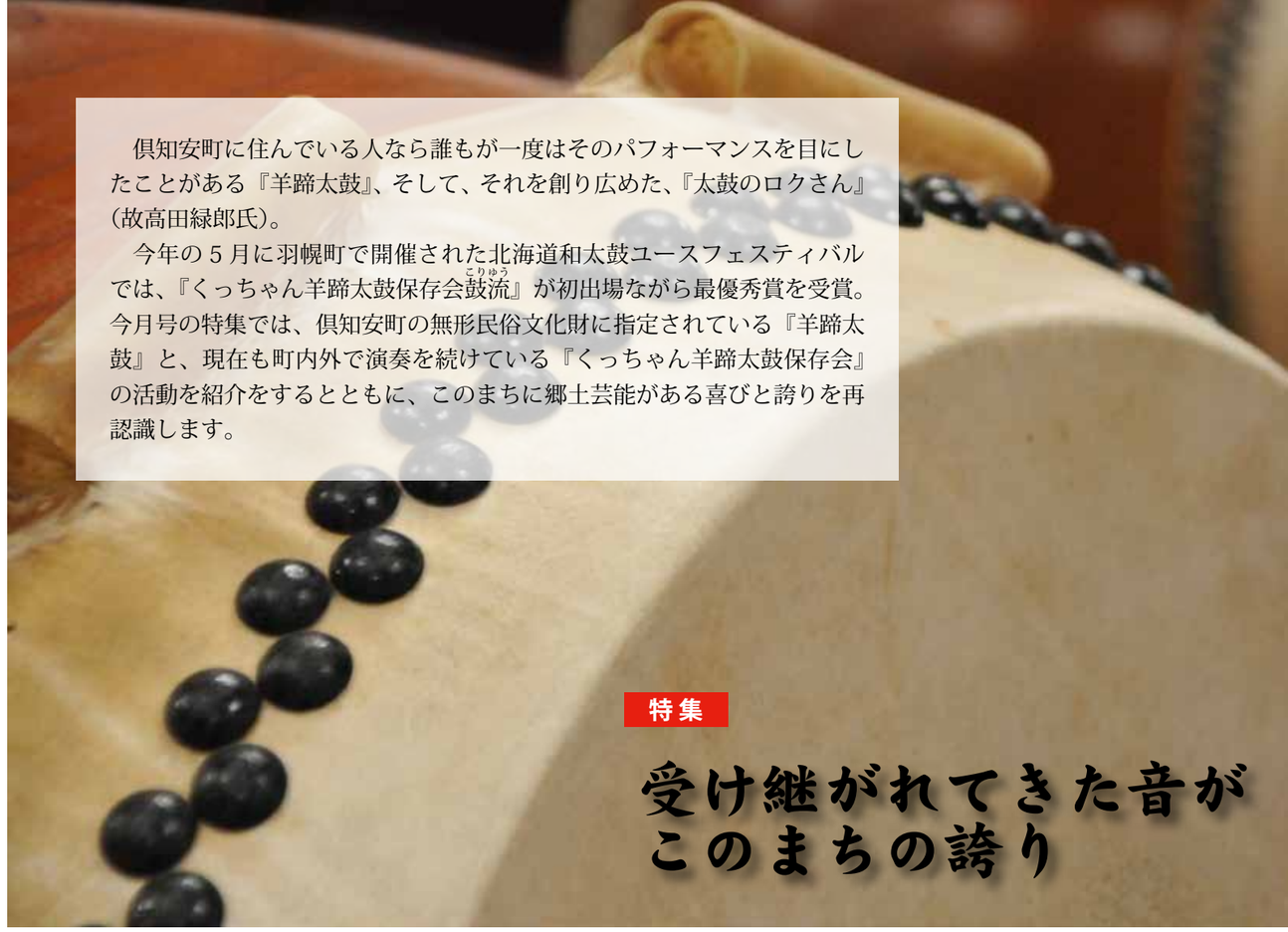

特集

受け継がれてきた音が このまちの誇り

俱知安町に住んでいる人なら誰もが一度はそのパフォーマンスを目にしたことがある『羊蹄太鼓』、そして、それを創り広めた、『太鼓のロクさん』（故高田緑郎氏）。

今年の５月に羽幌町で開催された北海道和太鼓ユースフェスティバルでは、『くっちゃん羊蹄太鼓保存会鼓流（こりゅう）』が初出場ながら最優秀賞を受賞。今月号の特集では、俱知安町の無形民俗文化財に指定されている『羊蹄太鼓』と、現在も町内外で演奏を続けている『くっちゃん羊蹄太鼓保存会』の活動を紹介をするとともに、このまちに郷土芸能がある喜びと誇りを再認識します。

羽幌町で北海道和太鼓ユースフェスティバル開催

5月18日㈯、留萌管内羽幌町にて『第16回北海道和太鼓ユースフェスティバル』が開催されました。この大会は、18歳以下、12名以内の構成で、課題曲と自由曲を演奏し、技術やその曲に合った表現はもとより、チームの個性、さらにはステージ上での礼節までもが審査されます。

鼓流が初出場で最優秀賞に

今回初めて俱知安町から『くっちゃん羊蹄太鼓保存会鼓流』が出場し、最優秀賞である知事賞を受賞するという快挙を成し遂げました。８名で出場した鼓流は、今回の課題曲『春爛漫』と自由曲『羊蹄太鼓』・『ニセコ連山太鼓』を演奏しました。

課題曲の『春爛漫』は北海道太鼓連盟の合同曲であり、テンポが羊蹄太鼓より速く、今回参加した鼓流のメンバーにとって、これまで演奏したことのない曲でした。作曲者が札幌市の太鼓団体『風雪太鼓』の会長を務めることから、今年3月には、その練習に出向き、パフォーマンスを目に焼きつけ、肌で感じ、大会まで練習を重ねました。

大会当日の鼓流の演奏について、以前、この大会で審査員を務めたことのある矢吹俊男さん（くっちゃん羊蹄太鼓保存会）は、「さまざまな場面で演奏してきた経験と、これまでの練習の成果が十分に表れた結果。全ての項目において完璧なパフォーマンスでした」と絶賛します。ステージ上での一瞬一瞬を心から楽しんだ子どもたちのパフォーマンスは、多くのお客さんを笑顔にしたことでしょう。

▲北海道和太鼓ユースフェスティバルの出場メンバー

喜びの声

今回の課題曲である春爛漫は羊蹄太鼓とは違うため、一から覚えるのが大変で、練習の時も本当にできるようになるのか不安でしたが、先輩たちに教えてもらいながら全員で頑張って練習したことで、曲を完成させることができました。

大会に出場したのは今回が初めてで、お母さんからは「参加することに意義がある」と言われていたため、最優秀賞という結果にはびっくりしました。これまで太鼓をやってきて一番のビッグニュースです。受賞が決まった時は、チームの全員が喜んでいて、大人たちも「優勝すると思わなかった」と泣いて喜んでくれているのを見て、私もさらにうれしくなりました。

太鼓のイベントなどでは、多くの人と話す機会があり、他団体の同年代の人とも仲良くなることができるため、うれしいです。最近は褒められることやできることが増えてきたため、太鼓をしていてすごく楽しいです。大人になっても今と同じように太鼓を続けていたいと思います。

くっちゃん羊蹄太鼓保存会鼓流のメンバー

鈴木　鼓響（ことね）さん

和太鼓では北海道初の町無形民俗文化財に

『羊蹄太鼓』が『太鼓のロクさん』によって創作されたのは昭和38年（１９６３年）のことで、ロクさんとその家族などにより、さまざまな場所で披露されました。

ロクさんの愛される人柄と、断らずにさまざまな場所に出向いて演奏する活動もあり、次第に町民の目に触れる機会が多くなった羊蹄太鼓は、いつしか、このまちが誇る郷土芸能となり、まちにとって欠かすことができないものとなっていきました。

その後、平成９年11月1日には、郷土芸能として長年演奏され続けてきたことなどを評価されて、『俱知安赤坂奴』に続く町で二つ目の無形民俗文化財に指定されました。当時、道内で和太鼓の文化財指定は無く、羊蹄太鼓が道内初のことでした。

鼓流結成が「保存」から「発展」に変わる転機に

くっちゃん羊蹄太鼓保存会は、羊蹄太鼓とそれを創ったロクさんの思いや教えを受け継いでいくために、平成３年に設立されました。当初の保存会は羊蹄太鼓を風化させないようにすることを中心に活動していたため、演奏回数が少なかったことから、演奏で多くの人に羊蹄太鼓を伝え、広めることなどを目的として鈴木秀夫さん、智夫さん兄弟などを中心に平成５年に鼓流を結成しました。

鼓流の法被には、ロクさんの教えを受け継ぎながらも、さらに発展させていくという意味で『従藍而青（じゅうらんにしょう）』の四字熟語が書かれています。現在は多くの海外公演を行うなど、羊蹄太鼓と俱知安町をこれまで以上にアピールするために活動しており、鼓流の他にも、鼓流Jr、和鼓心（わごころ）が結成され、活動の広がりを見せています。

▲鼓流の法被に書かれた「従藍而青」

知ってる？
くっちゃん羊蹄太鼓保存会

鼓流（平成 5 年結成）

羊蹄太鼓と倶知安町をアピールするために結成され、海外などでも演奏しています。鼓流 Jr など、他チームの技術指導も行っています。

鼓流 Jr（平成 24 年結成）

小学生から高校生までの子どもたちで結成され、楽しむことだけではなく、さらに上手くなりたいという向上心を持ち活動しています。

和鼓心（平成 25 年結成）

家事や仕事に忙しい、お母さんたちで結成され、笑顔で楽しくをモットーに、太鼓を通してできた人の輪を大切にして活動しています。

北陽小学校羊蹄太鼓少年団（昭和 60 年結成）

ロクさんは、この少年団のために『北陽太鼓』という曲を創作しました。その曲は、この少年団でしか演奏ができない特別な曲です。

くっちゃん羊蹄太鼓保存会
鼓流代表

鈴木　秀夫 さん

10 歳の時に羊蹄太鼓を始め、ロクさんの指導を受けました。現在は鼓流の代表を務める鈴木秀夫さんに羊蹄太鼓とロクさんについて話を聞きました。

和太鼓は現在、日本だけではなく世界に広がっており、道内だけでも太鼓団体は３００以上あると言われています。その中でも羊蹄太鼓は曲の中に明確な表現があり、それが他の太鼓にはないオンリーワンの魅力です。

羊蹄太鼓が誕生した当時の和太鼓は、能・狂言のような伝統芸能や神事などで披露されるだけで、曲として演奏することはあまり広まっていませんでした。そのため、伝統がある羊蹄太鼓は他の太鼓団体などからは手本のように扱われており、太鼓に携わる人にとって、ロクさんは神様のような存在でした。

ただ、自分たちは等身大のロクさんを子どもたちに伝えていきたいと思っています。誰よりも純粋であり頑固でもある。だから振り回されたこともたくさんありました。しかし、これほど多くの人から愛された人もいません。それは、損得を考えずに行動し、どこでも、誰のためでも演奏してきたからです。

ですから、今も自分たちは『断らずにどこでも演奏する』『自分たちが楽しいなら、お客さんも楽しんでくれる』というロクさんが大切にしていた気持ちを忘れずに演奏しています。

羊蹄太鼓は町の無形民俗文化財になっているため、これからも残っていくと思いますが、『高田緑郎』という人を忘れさせてはいけないと思っています。そのために、子どもたちにロクさんの教えを伝えていく、それが今の自分たちの役目です。

特集

受け継がれてきた音が このまちの誇り

▲羊蹄太鼓講座の様子

あなたの身近な羊蹄太鼓 公民館文化講座

公民館で町民を対象に開催されている文化講座の一つに、羊蹄太鼓講座があります。当初は公民館主催の『太鼓教室』として、ロクさんが羊蹄太鼓の普及などを目的に、小学生から大人まで幅広い年代を指導するというものでした。その後、現在の羊蹄太鼓講座に形を変え、長年にわたり開催されています。

今年度は14名の方が、くっちゃん羊蹄太鼓保存会のメンバーを講師に、羊蹄太鼓の体験を行っており、受講者の中には、外国人の方もいます。

宿泊施設で仕事をしている時に、公演に来ていた鼓流のパフォーマンスを見て羊蹄太鼓に興味を持ち、今回受講したという台湾出身の女性は、「海外から来た宿泊客に羊蹄太鼓について説明ができるようになりたい」と話しました。

受講した方の演奏は、じゃが祭りでの百人太鼓で披露されます。

世界中に響け 故響 の音

太鼓のロクさんが創作した羊蹄太鼓は、くっちゃん羊蹄太鼓保存会の活動により倶知安町だけではなく、さまざまな地域で愛されています。太鼓が好きで、どこでも、誰のためでも演奏するというロクさんの教えは今も受け継がれており、そのパフォーマンスにより多くの人を楽しませています。町外で演奏する際には、過去に倶知安町に住んでいたことがある方から、「倶知安を思い出しました」と言われることも多いそうです。

これからも羊蹄太鼓は『倶知安町の音』として、私たちを楽しませてくれるとともに、ロクさんから受け継がれてきた伝統と誇りを胸に、世界中にその音色を響かせることでしょう。

じゃが祭りで披露される、百人太鼓の演奏は迫力満点です。ぜひご覧ください。